

**平成25年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1対1対談(伊賀市)会議録**

1. 開催日時：平成25年7月14日(日)13時00分～14時00分
2. 開催場所：三重県伊賀庁舎 7階 大会議室
(伊賀市四十九町2802番地)
3. 対談市長名：伊賀市(伊賀市長 岡本 栄)
4. 対談項目：
対談テーマ「県と市のコラボレーション」
 - (1) 城下町と農村部の魅力を生かした観光振興について
 - (2) 「農林産物のブランディング」について
 - (3) 「みえ森と緑の県民税」市町交付金事業の指針について
 - (4) 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について
 - (5) 芭蕉翁生誕370年関連事業への取組について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

今日は日曜日のお昼にもかかわらず、このようにたくさんの皆さんに来ていただいて、岡本市長と初の1対1対談になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

この1対1対談というのは、主に来年度26年度の予算を編成する前に、まず、市長や町長のお話をお伺いして、それぞれの重要な課題をしっかりと県政に反映できるようにということでやらせていただいておりますが、もちろん中長期的な課題も含めてご議論をさせていただきます。その中でももちろん全部が全部分かりましたと、やりますというわけにはいかないものもありますが、少しでも一歩でも半歩でも前に進めてやっていきたい。そして、それを市民の皆さん、県民の皆さんの前で共有していこうという時間でございます。ぜひ、限られた時間ではありますが、有意義に過ごしていきたいと思っております。

一昨日、私、高校野球の始球式に行ってまいりまして、3回目になりますが、今回が一番、ちょっとボールではありましたが、ストライクに近い感じやったと思うんですが、伊賀白鳳高校、初戦を勝ちましておめでとうございます。

今日、岡本市長のご配慮に感謝申し上げないといけないのは、本来、この1対1対談は、私が出向いてこの伊賀という地域に来ましたが、出向いてお話をさせていただく機会であるにもかかわらず県庁舎を使わせていただきまして、

大変申し訳ないと思いながらも、ご配慮に感謝申し上げたいと思います。そんなことで今日は有意義に過ごしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

伊賀市長

今日は朝から晴れたりどしゃ降りになったり、大変難しいお天気でございますが、そんな中、知事に来ていただきまして本当にありがとうございます。

先ほど知事のお話にもありましたが、今日こうして1対1でお話をして、今まで何度かお目にかかりましたけど、1時間もじっくりと話をさせていただくことは滅多にないことでございますので、問題の共有をさせていただいて、時間を有効に使わせていただきたいというふうに思ってます。

今日はいろんなお話をお伺いさせていただきたいと思います。よろしくお願い致します。

(2) 対 談

「県と市町のコラボレーション」

1 城下町と農村部の魅力を生かした観光振興について

伊賀市長

知事は生まれが兵庫県ですね。小さいころはこの伊賀とか三重県とか来られることはありましたか。

知 事

関西は修学旅行が三重県だったので、でも、残念ながら伊賀には来ませんでした。鈴鹿サーキットと鳥羽水族館と伊勢神宮に、小学校のときに行きました。

伊賀市長

それ実は全部三重なんです。伊賀に初めて来られたのはいつになりますか。

知 事

伊賀には、衆議院選挙に出たときに県をいろいろ回りましたので、その時に来たのが最初だと思います。

伊賀市長

忌憚のないところで、この伊賀というところは知事になられてからなんべ

んも来ていただいて、皆さん喜んでいるわけではあります。どんな感じ、どんなイメージのところですかね、知事から見たら。

知 事

住んだことがないので、住んでみての実感とここで今から申し上げることと、多分今日来ていただいている市民の皆さんと、もしかして乖離があるかもしれません。忍者とか芭蕉とか、外に向けていろいろ、ここに来ないというようなものがたくさんあって、これを生かさないともったいないと、そういう思いですね。

伊賀市長

我々伊賀の人間というのは、意外とその辺のところはふんだんにあるものですから、周りに何でもいっぱいあると、そうありがたく思わんというところがこの地域の特徴というか、本当は芭蕉なんかでも奥の細道へ行ったら、芭蕉さんが来てくれはって、ここで腰掛けたその石ですとって前に垣を巡らして大事にしているんですけど。この町は芭蕉が生まれた生家があるんですが、十分にそれが生かされているかという、そんなこともなくて、その意味では資産に恵まれすぎている感じはあるんですね。

知 事

芭蕉も奥の細道の関係で行くと、山形県さんへ行くと、最上川もそうですし、セミの声の場所とかもいろんなところが立ってたりとかしてますからね。

伊賀市長

今でもこの伊賀というところは、三重県の中ではそういうふういっぱい観光資産があって、しかも城下町という風情が戦災を受けませんでしたので残っている。その辺のところはそういうことを生かした観光をしっかりとしなければと思います。

今年は遷宮の年ですから、ものすごく三重県には誘客があるということですが、その辺、知事頑張ってますね。

知 事

とにかく今年を逃してはいけないというので、「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」という観光キャンペーンをやらせていただいて、おかげさまでゴールデンウィークまでの観光客も好調ですし、意外と遷宮といいながらも、

そういういろんなPRをしてるんですが、例えば海外の台湾とかタイのお客さんとかが喜ぶのは忍者列車だったりとか、忍者はこの間も「阿修羅」がパリに行って来ましたが、非常に受けがいいですね。

伊賀市長

パリジェンヌが度肝を抜かれて7万人ぐらいご覧いただいたということです。今、知事、ここについている、そのバッチ、それ全部三重なんですのバッチですね。そこに何が書いてあるか、皆さんには見えないと思うんですが、何が書いてありますか。

知事

右回りに順番にいけますと、伊勢神宮ですね、熊野古道、忍者、伊勢えび、真珠、海女、牛、ここでは伊賀牛ですかね、レジャー施設、モータースポーツ、温泉、夫婦岩があります。

伊賀市長

それらは確かに三重県の誇るべきもので、ただ、それを聞かれて、この伊賀の人たち、「うん？」と思っているのが一つ分かりますか。芭蕉。ずっと地元の人たちは芭蕉はどないなってるのといって、今日もこの辺プレッシャーがいっぱいかかっているんですが、ぜひ。また、来年が芭蕉の生誕370年ということで、実はもうちょっと後で出そうかと思ったんですが、ここに今日は暑いのでこんなの持ってきたんです。生誕350年のときの「夏炉冬扇」という団扇です。

知事

「夏炉冬扇」、書いてますね、三重県上野市伊賀文化産業協会、上野市観光協会、芭蕉顕彰会。

伊賀市長

それ、私、市長室に入りまして倉庫を見たら、腐るほどあったんです。今日は暑いし、ぜひ、知事に使ってください。

知事

これよろしいわ。これで扇ぐ。団扇として機能性高いですよ。

伊賀市長

知事室に持って帰っていただいて。

知事

分かりました。では、いただきましょう。

伊賀市長

その「夏炉冬扇」というのは無用の長物みたいな意味でよく使われますが、ただ、その中に説明書が入ってまして、それを読んでいただくと、ものすごくいいことを書いてあるんです。「夏炉冬扇」というのは、無用のもののようなわけでも、風雅と関係ないように思うけれども、やっぱり物事というのは関係ないように見えることが大事であるということですね。ですから、そういう大変高度なことを団扇が語っているということだそうです。

知事

今日、ずっとこっち向いてテレビカメラ向きにこうやっときますわ。

伊賀市長

その団扇を持っていただくと、皆さん、知事も芭蕉のことはしっかりと認識していただいているんだなという、災難除けでもあります。

観光というと、忍者というのが世界語になってますね。知事も小さいときから忍者好きでしたか。

知事

僕らのときは「忍者ハットリくん」のアニメが全盛期でした。市長がアナウンサーやられている頃でしょうね。関西テレビだったと思いますが、市長が「マイ大阪」という番組をやっているのも毎回見てまして、「まいまいまい」というのも全部歌えるんです。

忍者は小さい頃から好きですよ。最近も知事になってから世界に誇るコンテンツとあって、忍者と海女に特に力を入れて、忍者の協議会の皆さん頑張っていて、こういうロゴマークもつくっていただいて、僕の公用携帯の後ろに忍者の忍の上のこうなっているところね、三重県の形しているんですね。

伊賀市長

それはすごいおもしろいアイデアですね。今度、三重交通がそのロゴで走

ってくれるんですよ。

知 事

それはすばらしい。伊賀流忍者と書いてあります。

伊賀市長

だから、そういうロゴも使い、忍者といったら伊賀市だけだと思われませんが、名張のほうもありますし、県のほうにも忍者の協議会をつくっていただいて、どんどんこれを世界に発信していくということで頑張っていただいているんですね。

台湾へ知事が行かれて、観光キャンペーンで、向こうの方も大好きですか。

知 事

元々日本のことについてよくご存知ですが、中でも見て分かりやすいものとか好きで、忍者はすごく人気があります。例えば台湾で今年の3月に台北という首都と台中という3番目ぐらいに大きいところで三重県の物産展をやったんですが、そのときに手裏剣投げのブースに長蛇の列ができて、みんな手裏剣投げを体験してくれまして非常に人気がありました。

伊賀市長

インバウンドで伊賀のほうに誘客をしていただいて、この間も伊賀鉄道での忍者体験事業がサンデー毎日にも載りましたが、ああいう流れというのを遷宮と絡めて、県のほうでPR等々を頑張っていただいているんですね。

知 事

そうですね。今も少し申し上げましたが、コンテンツの中身という意味では、忍者と海女を磨いていって、いろんな情報が散乱しているので、それをまとめてデータベースにしてしっかり発信するとか、ロゴマークをつくるとか、そういうようなこともやらせていただいていますし、いろんなところとリンクをして、東京で何か三重県のPRをやるときには、忍者にも必ず来てもらうとかして、伊勢神宮だけとかじゃなくて、まとめて一緒にPRすることでよく理解してもらおうというようなことをやっています。

伊賀市長

この前、六本木のミッドタウンでいろいろなキャンペーンの相乗りをさせていただきましたが、あのときの忍者ショーも随分、外国の方に喜んでいただき

ました。今度からどうでしょう、知事さんも忍者の衣装を着るといのは。

知 事

僕も忍者の格好ですか。これはまだチャレンジしたことないですね。

伊賀市長

そういうの好きでしょ。

知 事

僕はどっちかというとな好きなほうですね。ちょっと相談してみます。

伊賀市長

海女の格好はせん方がいいと思いますが。

知 事

確かに海女は難しいけど、忍者はできるかもしれませんね。

伊賀市長

私も折々させていただいておりますので。

知 事

市長の忍者は、すごく豪華な服じゃないですか。

伊賀市長

今度は知事バージョンというのを考えます。

大事なことはいろんな方に来ていただいて、地元の良さをしっかりと発信していくことではないかと思っておりますので、いわゆる着地型観光ですか、この頃よく言われますが、そういうことで伊賀もどんどん発信していきたいと思っております。

三重県もそういう意味では大変いろんな場を設けていただいております、今度、日本橋のほうにつくっていただいているんですね。

知 事

9月に日本橋に営業拠点の「三重テラス」をやらせていただきます。これは今、世の中にあるもので言うとアンテナショップというものの仲間ですが、アンテナショップって普通に薄く広く県内の物産が何の特徴もなく置いてあった

り、薄く広く何の特徴もなく観光パンフレットが並んでいるというようなものばかりですが、そういうのではなくて、体験型とか、あるいは学べたりとかおもしろいものをしていと思っていますので、そういう意味では芭蕉の例えば不易流行の考え方を東京の若者やビジネスマンに学んでもらうとか、あるいは芭蕉生誕 370 年を記念してのセミナーをそこでやっていただくとか、あるいは、忍者学みたいなのを披露していただくとか、いろんなことができるようなスペースも設けてありますので、ぜひ、市町の皆さんにも伊賀市も含めて、もちろん光熱費とか賃貸料は自治体の場合は無料でお貸ししますので、使っていただいてそこを拠点に、市町も民間団体も一緒になってPRをやっていければと思っています。

日本橋というのは、ご案内のとおり東海道で弥次さん喜多さんが、日本橋からスタートをしてお伊勢参りしていったという、いわばお伊勢参りが目的地で、その始まりの地であるところでもあります。また、三井家を始めとする伊勢商人ゆかりの地であり、三越や三井不動産などの「三井グループ」、食品問屋大手の「国分」、紙問屋の「小津産業」、鯉節の「にんべん」など今なお三重ゆかりの企業がたくさんあります。更には三重県が発祥の岡三証券本社など三重県縁の企業があり、そういうような想いで日本橋でスタートさせていただくというので、今着々と準備しているところです。

伊賀市長

単なるアンテナショップという物を並べるところではないわけですね。

知 事

そうですね。旬の物、そこで提供できる、あるいは地元に来ないと食べられないものを、そこでだけ、一部の期間だけ、ちょっとだけ提供する。これを全部いっぱい食べようと思ったら、地元へ行かないかんみたいな。例えば伊賀牛のような地域で消費をされる率が高くて、なかなか大きいマーケットに出回りにくいレアなものをちょっと提供して、じゃ、これを食べに地元へ来てくださいというような旬とか限定とかレアみたいなのを生かした食の提供もしていきたいと思っています。

伊賀市長

あとは使う方たちが使いやすい、手続きとか、あるいは使い方とか、あまり細かいことを言わずに使えるようにしていただけるとありがたい。

知 事

市町の皆さんが使いやすいようにということで、雇用経済部が担当ですが、そこにエリア担当、伊賀地域担当というのを置きまして、専属的に地域事務所と一緒に伊賀地域の皆さんのご要望を聞かせていただいて、利用しやすいように使うということですので、どんどん遠慮なくご提案いただいて、協議をさせていただいて、例えば、伊賀市ウィークみたいなので1週間丸ごとやっていたとか、そんなんもありだと思えます。今までだと東京の高いホテルを借りてお金いっぱい使わないかんだところを、無料で使っていただけるような感じでやりたいと思えます。

伊賀市長

あとは知恵と工夫ということになっていくわけですね。

今、おいしいものの話が出ましたが、伊賀市も頑張らせていただいて、この秋、10月の末から11月まで浅草のすし屋通りに伊賀のおいしいものを持って行って、それぞれのお店にレシピを考えていただいて、その物産をキャンペーンしてこようと思っているんですが。私が行って2～3レポートもします。

知 事

さすが。前職を生かして。

伊賀市長

僕がやったら金がかからんです。

知 事

確かにどこかの若いリポーターに頼むよりは、質も高くて金も安いという、それはよろしいですね。市財政にとってもいいですね。

伊賀市長

県も市も財政というのは難しいところがありますので。

知 事

僕もそうですが、司会をする市長とか、レポートをする市長というのは、なかなか全国的にも珍しいですね。

伊賀市長

知事もなかなかのタレントですので。知事にしておくのはもったいない。

知 事

浅草のような形で何かやっていただいて、それをまた連携して首都圏の営業拠点で浅草でやっていただいている時期に、こちらもサポートできることがあれば、ぜひさせていただきたいと思います。

伊賀市長

今日もそうですが、何をさせていただこう、何をせよということではなくて、お互いがこういうことをしているんだとか、あるいはうちはこんなことができますよ、こんなのありますよということを情報共有をして、それこそ県市一体となってよい方向性に進んでいくことが一番大事なことですよね。

知 事

県だけでできないことは、いっぱいありますし、市や町だけでできないこともいっぱいありますし、行政というところだけでできないこともあるし、今、市長がおっしゃっていただいたように市、町、県、民間あるいは市民の皆さんと一緒にあってコラボレーションしてやっていくのがすごく大事なことです。

伊賀市長

なにせこれからはみんなができることを自分らでやっていくということが、どのジャンルでもどんなことでも大事なことです。

知 事

そうですね。県のほうも「県民力ビジョン」というところで、そういう県民の皆さんの一体となった力、県民力が大事だし、そこにアクティブシチズンという、市民県民の皆さんが自ら動いて自ら考えてというのが大事だしというようなコンセプトで「県民力ビジョン」を書かせていただいていますので。

伊賀市長

今まで行政とか民間とかで対立構造でいろいろものを言ったり考えたりしてましたが、こういう時代になってくると、行政とか民間とかがあまり関係ないですね。やれることをやれる者がやるということですね。

知 事

そうですね。そうしないとうまく回っていかないし、これだけみんなの価値観が多様化しているし、幸せの形とかも多様化している中で、一定の人たちが

一定の発想でやるのではなくて、みんなが知恵を出し合ってみんながやれることをやったほうが、たくさんの方の幸せにミートする可能性が高いということですね。

2 「農林産物のブランディング」について

伊賀市長

知事にあっちこっち県内を走り回ってもらって、外国まで行ってもらって、そういう意味では非常に情報発信していただいて、また、情報もつかんで帰って来ていただいて、それを私たちも共有させていただくことは本当にありがたいと思います。

今、おいしいものの話をしましたが、農林産物も情報を伝えることが大事ですし、しっかりとした地元での受け皿というか、主体をつくっていかないかん問題でありますよね。

牛の話が出ましたが、大変おいしい伊賀肉は生産量が少ない。大正ごろには年間 400 頭、東京に出したといいますが、そんなことはとてもできませんし、最近の話では6～7軒のそうした畜産の方々が新しい仔牛を入れないとか、あるいは廃業とかと言ってますので、これからの農業、畜産は担い手育成、あるいは営農形態というのが大事なことになると思いますね。

知事

そうですね。伊賀肉のプライベートな話を暴露しますが、ある日本有数の誰もが知っている大きいゼネコン会社の会長さんに誘われて、東京・広尾のイタリアンレストランに行ったんですね。めっちゃ高い、めっちゃうまいとこですが。そこでシェフの人に、「伊賀牛というのがあるんです。」と紹介したところ、「そんなん聞いたことないです。」と。でも、「おいしいからだまされたと思って一回産地に来てもらって、一回よかったら使ってください。」と。「そんなの聞いたことないから嫌や。」と言われたんですが、「まあええから来てください。」と言って来てもらって、実際に食べて、あまりにもおいしかったので、今、その広尾のそこのイタリアンで伊賀牛を使ってもらったりとかしてるんです。こういう地道な営業もやりながらですが、それを支えるのが、今、市長のおっしゃっていただいたような担い手の方であり、生産者の方の営農形態なんですね。

今、県では地域活性化プランという形で、各集落ごとに皆さんでこういう目標を持って営農形態を進めていこう、あるいは、国の制度では人・農地プランというもので、これも集落ごとの特に水田を中心とした経営をしっかりみんな

で考えてやっていこう、そういうことを集落ごとに営農形態とかをつくっていくプランづくりを応援させていただいているということと、あと、みえの就農サポートリーダー制度とって、これは伊賀市ではなく、名張ですが、ナシをつくっている人から、こういう自分が農業をやろうと思ったときに、兄貴分的に教えてくれる人がいないので非常に困ったんだけどという、でも、たまたま伊賀地域ではそういう人がいたので僕は助かったというのをヒントにつくったみえの就農サポートリーダー制度というのがある、そういうもので少しでも若い人に入ってもらおう仕組みをつくったりとかしながら今やっているところです。

伊賀市長

伊賀だけでなく、重県全体あるいは日本中の問題でもあるんでしょうが。ただ、この地域についていえば、高齢化率が、伊賀市平均 28%ぐらいあるんですが、担い手の問題を抱える地域は、いずれも 30%、ところによっては既に 50% 近くなっているところもありますから、そうした地域の方々が農業、林業というのを支えていけるように、県のほうもしっかりとサポートをいただけるようなことを考えていただけたらと思いますし、我々もどうしたら後継者が増えるんだろうということを考えると、さっき「人・農地プラン」に話もありましたが、その地域地域によってしっかりとしたリーダーが育つことが大事なことになるかなと思います。だから、そういうリーダーというのは別に若い人に限らず、ベテランでもいいわけですが、そういう意欲のある人が出てこないとだめだというようなことでいくと、それこそ、JAさんも県も市もそうした地域に出かけていって、しっかりとアドバイスをしながら育てていくことが大事かと思えますね。

知 事

そうですね。あと、そういう担い手をつくっていくことと、担い手としてやっていくためには、生活できる基盤でないといけないと思うので、そのために所得が上がるように、まず売れるように、例えばさっきのイタリアンじゃないですが、出口をしっかりつくっていく、これは大きなマーケットづくりだけじゃなくて、地域の皆さんに愛してもらって地域の皆さんに食べていただくようなことも含めた出口の戦略、今、いろんな地域の直販所とか、地域でいろいろやっていただいている地域のレストランみたいなものもありますし、一方でコストを削減していくこと、例えば、燃料のことであったり、飼料のことであったり、また衛生面のことであったり。

特に畜産のほうですが、今まで農畜産課で、お茶も野菜も花も肉も全部一緒

の課でやってて変だなと思ったので、これだけの畜産県ですから、畜産課をこの4月からつくって、今、この畜産の、もちろんTPPもいろいろありますから、三重県の畜産業がどうやって生き残っていくかといった方向性を議論しているところです。その中で担い手のこととか、さっきのコストのこととか、出口のこととかも出てきますので、市長や伊賀市の現場の皆さんからいろんなご意見をいただいて、みんなで進んでいける方向性づくりをしていきたいですね。

伊賀市長

確かにものは良いわけですから、それをいかに生産者にしっかりとした経済効果を及ぼして、しかも消費者の方には喜んでいただいて満足を増やすかということが大事なことです。

知 事

今、伊賀市役所の若手の人たちが頑張ってくれた菜の花なんかも、あれ非常に好評ですよ、東京でやらせていただいて。

伊賀市長

東京の麻布とかセレブが集まるような高級なレストランで、菜種油を、菜の花絞りを使っていただきたいと、やっているわけですが、これも皆さん一所懸命やってくださって、問題は何かというと、ロットがまだまだ。「なんで増やさへんの。」と聞いたら、去年まいたところには作れません、連作障害があるということなんで、そういうふうに計画的にやっていかないかんということもあって。

知 事

三重県の伊賀の今の菜種に限らず、ロットが少ないのでというのが結構ネックになったケースがあるので、それでも期間限定とか、ロットに見合うだけの店の数とか、いくつか何か考えれば方法があるはずだということで、今そういう模索をしながら、営業拠点「三重テラス」においても、いきなり商品としてどこかの店に置いてもらうのはまだ勇気が要るので、トライアル、テストをやらせてほしいという枠を設けて、例えば2週間だったら2週間、新しいこんな商品を出したいので、営業拠点で東京の人々の感触を知るべくチャレンジさせてという枠もつくりますので、そういうところでチャレンジをしてもらいながら消費者の声を聞いて、そしてまた改良して商品として出していく、そんなこともやろうと思ってますので。

伊賀市長

東京のアンテナショップも大事ですけど、知事のように良さを言っていたかないと。

知事

ここの菜種油はおいしいねと。

伊賀市長

はい、おいしいねと。菜種油なんかでいうと、生絞りをやっているのは、この伊賀と北海道と2箇所だけです。だから、我々は日本のオリーブオイルと違っておりますので、ぜひ、これからもよろしく願いいたします。

それと、お米が東海地域では2年続けて「特A」というのはないと聞いておりますが、大体おいしいお米といたら、皆さん新潟魚沼のコシヒカリと思われるんですが。伊賀米のことを詳しく聞いてみたら、実は魚沼のコシヒカリよりもいいと、おいしいと。何がそんなにいいのと聞いたら、検査した方のお話によりますと、まず炊きあがったときの香りがいいと。それと、もう一つ、冷めてもおいしいと言うんですよ。それをいろんな方に伊賀のお米はこうこうで魚沼よりもおいしくて香りがよくて冷めてもおいしいというたら、みんな「おっ、おっ」と言うんですよ。そういうほかのどれよりも良いというところをもっと知らしめていたら、これは特Aランクのまだ上いくかもわかりませんから、その辺のところも知事またよろしく願いします。

知事

やはりそういう自分たちのものの何が良いというのをよく知ることが大切なんです。そういう気づきの場の提供みたいな、今県でもいろいろやらせていただいているので、そういうのを活用いただいて、意外と自分たちって自分たちのいいものってよく知らないんです。結構今、例えば大きなショッピングセンターで三重フェアみたいなのを全国中でやらせていただいているんですが、バイヤーさんに来てもらって、商品を作っている農家というか、米作っている人とか、自分の商品を入れてくれというので面談みたいなのをしてもらってますよ。そのバイヤーさんが言ったのは、いきなり価格を言い出してきて、それで面談終了みたいな。何がいいんですか、どこがいいんですか、どういうところがいいんですかというのを、まだまだPRができない生産者の方とか加工の方とかがたくさんいるので、そういう部分の気づきを自分らでやっていけば、もっと良くなるんじゃないかというアドバイスもいただいたりしてます。あとはやっぱり言い続けることですね。

この前、山形県知事にも来ていただいて、PRして今度、僕は山形へ行ってPRするんですが、「つや姫」という向こうが作ったお米をPRしているんですが、今日、山形県知事おらんで言いますが、間違いなく伊賀米コシヒカリのほうがおいしいんですが、うまいうまいとどこへ行っても言いまくるわけですよ。「つや姫」の母と言われていたんですが、山形では、それほどに言いまくるわけですね。その効果というか、努力というか、アクションというか、そういうのをみんなですべてやっていかないとはいえませんが、

伊賀市長

言い続けてやっていったら、誰かが反応してくれて、例えば食べ物屋さんでも来てくれるわけですよ、たくさん。だけど、大事なことは何かというと、それを次につなげていくことの努力をやっていかないと、そのとき良くてもだめになりますね。

知 事

県でも今までいろんな物産展とか、フェアみたいなのもやらせていただいたんですが、今まさに市長が言ったように、そこはいいと言われるんですが、その後の取引につながっていないのが結構多いので、今年からうちは流通の専門家に民間から来ていただいて、そういう良いと言ってもらったものを最後まで押し込む、商品としてしっかり取引して、棚に並ぶまでサポートするというのを個別にやらせていただくようにしているんです。そこまでやらないと結局作っている人に還元してこないし、所得が上がってこないと担い手も増えてこないし、先駆にならないですね。

伊賀市長

最後を押しえることが大事ですね。

3 「みえ森と緑の県民税」市町交付金事業の指針について

伊賀市長

それから、農林関係でいくと、来年新しい税金がいただけるということで伺っております。

知 事

「みえ森と緑の県民税」ということで、林業の関係ですが、お1人年間1,000円。もちろん一定の免除をされる方もいらっしゃるんですが、原則お1人年間

1,000円をいただいて、林業のことに使わせていただきます。その半分は県のほうで主にハード整備で間伐をしっかりとるか、あるいは未利用の間伐材がほったらかしにされているものを、雨が降ってそれが家のほうに流れてきたり、川に流れてきて橋りょうを破壊したりすることになりますから、災害に強い森づくりというようなこと、そういうハード整備に使わせていただいて、残り半分を市町の皆さんに使っていただくと。市町の皆さんは、その使い方はそれぞれ各市町で、例えば小学校や中学校や保育園に地元の木を使った椅子を使ってもらったりとか、あるいはみんなで環境教育をやるとか、その使い道は市町のそれぞれの思いに合致した形で使っていただけるようにということで今考えているところです。

伊賀市長

伊賀も山国ですから、杉の林が多いんですが、間伐ができてない、あるいは間伐したところも切り捨てになっているというようなことで、これをなんとか整備しなければいけない。搬出のときに補助をつけたりして皆さんに頑張ってもらって、なるべく山を荒らさないようにしていかなないと、緑というのは水源ということに関わってきます。伊賀と言えば水源地帯、これは結構下流の方たちって、認識がまだまだ。知事、どうでした、小さいころに京阪神の皆さんは伊賀から水が来ていると思ってましたか。

知事

思ってたんですね。僕は西宮というところの海沿いに住んでいたので、最下流にいましたが、そういう認識は、小さい頃はなかったですね。

伊賀市長

僕は大阪にいる頃は、自分ら今の水、どこから来るかよく考えてと言っていました。滋賀県は大変上手にそういうことをやっておられますが、三重県、特に伊賀というところは、下流に対するそういう認識を普及することは下手ですし、それを実際に私たちの水源涵養のことについてサポートして理解を深めていくことが、これからもっともっと大事になってくると思うので、実際に森と緑の県民税がいただけるようになった時には、確かに実際に事業ということももちろんできますし、そうした普及啓発をしっかりとやっていって、川でつながった地域の一体感、一体的な生活圏で、物事を解決していくようなことになっていったらいいなと思いますが、そういう意味ではこの税の用途は特定されてないようですから、我々それこそ地元の間がどれだけ意欲を持ってできるかということになりますね。

知 事

そうですね、市長おっしゃっていただいたとおり、下流に対する啓発とか広報みたいなことも含めて市町の交付金の中でなるべく自由に使っていただけるように。

逆に自由すぎてよく分からんという声もなくもないので、この8月にもう1回、市町の担当者の皆さんに説明会を全体でやらせていただくのと、地域機関ごとに、伊賀は7月18日だったと思いますが、説明会もやらせていただいて、イメージしているのはこういうことで、こういうように使えますという議論をしっかりとさせていただいて、来年度以降の実際に使えるようになってくるときの予算編成とか、交付金ですからそれぞれ議会にこういう形でいきますというのをやっていただかないかと思えますから、そういうところでお困りにならないようなサポートをしっかりとやっていきたいと思えます。

伊賀市長

バイオチップ発電とか、あるいは後継者育成とか、いろんなことに使えるかと思えます。

4 大規模災害の発生に備えた上野総合市民病院の強化について

伊賀市長

今、若干災害にも絡んだ話をいたしました、例の南海トラフ震災というのが、本当にあの予想は想定以上のものですね。亡くなる方は32万人強ということですし、三重県の地域においても、想定が随分変わりましたね。

知 事

今回の内閣府が出してきた南海トラフの想定というのは、今、市長がおっしゃっていただいた32万3,000人という全国レベルの死者数でいけば、三重県は4万3,000人、全国で4番目。静岡、高知、和歌山に次いで多い数になります。これは一方で理論的に今の科学の最新知見を使えば、最大級がこれということなので、これが現実には必ず来るということではないということは十分頭に置いておかないといけないですけども。それにしても三重県は100年や150年に1回、非常に大規模な地震津波が来ていますので、それには最低しっかりソフトとハードを整えなければならないということで、今年度が東日本大震災の教訓を踏まえての防災の計画づくりの集大成的な年ですので、今皆さんにご意見を伺いながらやらせていただいております。

伊賀市長

これまで伊勢湾というのは、津波被害は中に広がっていきますから、そんな
にないだろうという想定でした。今度は津や四日市にも結構な津波が来ますよ
ね。

知 事

津や四日市でも津波の予測もありますし、熊野灘はさらに時間が早いんです
ね。そういう意味では、また後ほども少し出るかもしれませんが、今回、伊賀
で広域防災拠点を整備させていただいて、オープンのとくに市長にも来ていた
だいて、東日本大震災で岩手県遠野市が果たしたような内陸地域が沿岸地域を
支える拠点となっていく、そういう役割分担をやっていき、そして事前にしっ
かり理解していくと、共有していくと、訓練していくということも大事だと思
っています。

伊賀市長

遠野の市長さんは、早くから先見の明があったというか、あの地域は津波の
被害を受けない、あるいは内部地域においてサポートできる場所があることを
認識されて、前々からそうした大災害に備えてきたら、そのはまだ皆さんの意
識がそこまで熟成しなかったのも、あなた、そんなことをするなら、もう少し
地元のことをしっかりしなさいとって随分怒られたそうですが、やはりああ
いう大災害が起こると、本当に今思うと役に立ったということで、伊賀とい
うところも、そういう意味では三重県内においては、一つのバックアップがで
きる重要な場所だと思っております。やはり近隣の県の物資の集うところ、あ
るいは配送するところの基地になる、そういうポテンシャルのあるところだと考
えています。

知 事

これからつくりますが、四日市ができると全部で5つの広域防災拠点ができ
ることになります。その中で特に四日市は全国的な、特に東日本からの応援部
隊とか物資の受け入れ拠点で、伊賀は西日本から来る物資や救援部隊の受け入
れ拠点として活躍する。そういう意味では5つあるうちの四日市と伊賀は、他
の防災拠点もサポートするんですね。少し上位の位置づけというか、より重要
な位置づけにして、特に西日本からの救援部隊、救援物資、緊急消防援助隊の
人たちの拠点になっていく、そういう場所として想定をしています。

伊賀市長

そういう意味では、物資の経路を確保する意味では、例の名神名阪連絡道路、こういう南北の道路が本当に早くできたらいいな、造りたいなと思っておりまして、知事も一所懸命言っていたらいいですね。

知 事

名神名阪連絡道路は、今度、全体の期成同盟会みたいなのがあって、私は残念ながらほかの公務と重なって行けませんが、先般、全国知事会の時に嘉田知事と話をしましたので、「共に頑張りましょう。」と。「私は今回行けず副知事が出席しますが、滋賀県の方が長いので滋賀県も一生懸命、うちも頑張りますが、滋賀県知事がやる気になってもらわないといけません。」ということをお願いしておきました。

伊賀市長

10キロ区間というと、土山から柘植まで三重県が3キロ、滋賀県が7キロということですから、それなりの段取りをしていただけますかということですが、知事もよろしくお願いします。

そういう中で医療ということも大変重要なことになってきます。今この地域の皆さんの最大の関心は医療ということで、上野総合市民病院においては、医師数、特に内科の先生が大変不足していますが、この辺のところも県としてしっかり応援をしていただきたいと思います。

知 事

医師確保については、特に伊賀地域は、三重県内で東紀州地域とならんで医師が少ない地域偏在になっていますので、我々も今、修学資金で医学生が三重県に残るようにというのを徐々に中長期的にやりつつ、併せて、短期的には寄附講座とか、あるいはバディホスピタルシステムという都心の方から来てもらうとか、あるいは無料職業紹介で全国中の医師に照会をかけて来てくれませんかということを入れていくところです。

伊賀市長

全国的な問題でもあるとは思いますが、本当にこの地域に住んでいらっしゃる方は、切実な問題でして、とりあえず救急で搬送された病院でしっかりと手当を受けたい。違うところに搬送されることは避けたいというような思いが強いんですね。そういう二次救急の充実を頑張っていきたいと思っています。その辺のところもぜひ三重大に知事のほうからもプッシュをしていただきたいと思います。

知 事

そうですね。この辺もそうですし、災害時とかの救急医療情報システムという広域のがありますので、近隣府県の大学病院なども含めての広域医療搬送のシステムがありますので、そういうものも活用してしっかり救急搬送ができるようにと思ってます。

伊賀市長

病院にヘリポートをつくるとか、そういうこともできる限りサポートをいただきたいと思います。

知 事

そうですね。病院の敷地内とか隣接地にヘリポートをつくったり、あるいは、自家発電装置を増設したり、応急用の資機材、衛星電話、簡易ベッドなどの支援のお金を、今、地域医療再生基金として国に今回お願いしましたので、夏ぐらいには内示が出ると思いますので、伊賀市の方でそういうのをやっていただく部分についてご協議いただいて、させていただければと思っています。

伊賀市長

格段の配慮をお願いしたいと。喫緊の課題としては、そういうふうな災害ということも絡んで、医師の充実とか、あるいは設備の充実ということもありますが、一つ心配するのは、将来的な地域の医療のあり方ということ言えば、それは災害が起こった時に先ほど津波の話をしたしましたが、伊勢湾岸地域の諸都市というのは、大変高度医療が集積しているわけですが、果たして大災害の時に県民の皆さんをその方面で治療ができるか、ケアができるかという、なかなか難しいんじゃないかと思っています。

ということは、繰り返しになりますが、この伊賀地域というのがそういう意味では災害拠点、物資だけではなくて医療についてもサポートのできるポテンシャルになる地域ではないかと認識をしておりますので、将来的なこの地域の医療のあり方を考える時には、県と市としっかりと協働するなり、あるいはいろんな分担をして充実させるなり、その辺のしっかりした方向性を持った検討をこれから進めていかなければならないのではないかと思います。

知 事

おっしゃるとおりで。今年度、医師の需給調査、今はこれぐらい見込みがあるから、これぐらいの数の医師をここの地域で、あるいはこういう診療科目で来てもらわないかとかという詳細な需給調査を実はやっています。それを踏

まえて、どういうふうに対策を打つか、その前段では、医療における役割分担や医療のあり方も全部県で何でもやるというようなこととするのかとか、どういう役割分担の中でいくのかということも含めて考えて、一緒になって進んでいくような形にしていきたい。今、材料の調査をしていますので、今、市長がおっしゃっていただいたようなどういう役割分担とか、どういうふうに協働してやっていけばいいのかということについても、そのデータや一定の試算のもとに、それをベースにしながらかつ各病院も含めて、今既にいろんな案件で市町も入っていただいて、地域の病院と三重県と県とで協議もさせていただいてますが、そういうことも密にやりながら、今申し上げたような、今後どういうふう

伊賀市長

この地域はよく考えてみましたら、確かに伊賀市、名張市合わせて18万という人口ですが、この地域の生活圏は県境を越えて奈良県の東部山間地域であるとか、京都府の南部地域のあたりと一体的であり、そういう意味でこの地域は医療の集積地であったり、商業の集積地であったり、教育の集積地であった。奈良や京都のそうした地域もぜひ、伊賀地域で面倒を見ていただけないかというような話も久しくいただいたりしておりますし、実際にこちらの市民病院で、あるいは名張のほうもそうでしょうが、近隣府県の方たちが来られている。そうすると、あと5万人ぐらひは医療の需用を求め人たちがいると。そうすると、25万人ぐらひの医療圏が潜在的にあるということなので、三重県と近隣の府県との特区のようなものができて、実際に地元の方たち、住んでいらっしゃる方たちが安心するようなことを多面的に考えていただけたら皆さん喜んでいただけるかと思ひます。

知事

生活圏を視野に入れると、伊賀地域もそうですし、東紀州地域の和歌山と三重の県境部分もそうですし、愛知と三重の県境部分の木曾岬もそうですが、県境部分の医療と防災はよく配慮しなければいけないところだと思ひますので、どういう手法があるのか、そういうことについてもそれぞれの県の知事さんや地元の方々とよく相談をしていきたいと思ひます。

伊賀市長

その一言で今日来られた方は喜んでいただいたと思ひます。

5 芭蕉翁生誕370年関連事業への取組について

伊賀市長

あと一つ、これだけもう一回繰り返しておかないと、私、地元の方に怒られるので。来年は芭蕉の生誕 370 年でございます。宣長さんと芭蕉というのは、日本の文化をしっかりと規定した人たちだと思います。また三重県の偉人ということですから、県の方もぜひ、バッチの中の真ん中あたりに、据えていただいて、来年の事業にぜひ格段のご配慮をいただいて、そういうことを申し上げさせてもらって、今日は本当にありがとうございました。

(3) 閉会の挨拶

知 事

今日は市長、どうもありがとうございました。

また、お休みの日にたくさんお越しいただきました皆さん、本当にありがとうございました。

ふだんは決まっている事項について、これについてどうかと言われて、これについてはこうだ、これについてどうか、これについてこうだというのをやるのが大体多い1対1対談ですが、こういう形式で「徹子の部屋」ならぬ「栄の部屋」みたいなそんな感じでしたね。市長がインタビューアーで僕が答えるみたいな、そういう感じ。岡本市長らしい手法で。しかし、それぞれのポイントにおいていくつか約束させられたものもありますので、そういう意味では本当に有意義な1時間だったと思います。これからも一生懸命頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。